

上山市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和8年1月26日（月）午後3時30分～4時50分

2 場 所 上山市役所 政策会議室

3 出席者

市 長	山 本 幸 靖
教 育 長	加 藤 洋 一
教 育 委 員	菅 野 高 志
教 育 委 員	木 村 佳 代 子
教 育 委 員	長 藤 節 子
教 育 委 員	山 口 誠

出席職員

庶務課長	尾 形 俊 幸
教育企画課長	高 橋 秀 典
学校教育課長	長谷川 惣 泰
生涯学習課長	漆 山 徹

事務局

庶務課副主幹	遠 藤 朋 子
教育企画課副主幹	長 岡 孝
教育企画課副主幹	齋 藤 琢 也
教育企画課主任	阿 部 浩 幸

4 会議概要

(1) 開会

教育企画課長より開会を宣言

(2) あいさつ

山本市長

教育委員の皆様には、日頃から教育行政に多大なお力添えを頂いていることを、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。さて、総合教育会議とは、本市の教育の未来を創造していく大変重要な会議と認識をしています。社会が大きく変化していく中、また変化のスピードが早まっていく中で、いかに子どもたちへ良い教育を提供していけるか。

これは、自治体の生き残りの道であり、もう少し広い意味で言えば、現在、日本の未来が懸かった重要な局面だと感じている。そんな中で地方自治体として何が出来るかということを我々は真摯に向き合いながら考えていかなければならない。

また、多様化により、子どもたち1人ひとりに対し、その適性に応じた教育を提供することが求められていると感じている。そのような状況の中、「みらいの学校構想」について様々な検討を重ね、その素案が出来上がった。今日は短時間であるが、教育委員の皆様からご意見を頂戴できればと思っている。率直な意見をお願いしたい。

(3) 協議ア 上山市みらいの学校構想（案）について

教育企画課長 説明

(質疑応答等)

山口委員

複式学級が始まった中川小学校について、課題、悩み等、先生方の様子はどうか。

学校教育課長

複式学級を実際に担当すると、教材研究の時間が倍になるなど、子どもの数が少なくても、たくさんの準備が必要になる。また、どちらかの学年を見ると、どちらかの学年を別の人が見ているなど、フォロー体制はあるが、学校として正直難しいところがある。

山口委員

以前、学校統合を検討する仕事をしていた。複式学級の運営は大学でも学ばない領域。複式学級になるということは、上手くいけばその子どもたちに自学自習の力が伸びる可能性がある。当時、複式学級が進んでいた地域に勉強に行き、先生方が複式学級の担任になることは非常に負担となると感じた。ただ当時は、先生方が頑張り、非常に力がついていた子どもたちが育った。

しかし、複式学級が2学級になると学校としては非常に厳しい。複式学級となると、教務主任も担任兼教務であり、先生が1人減る状況が出てくる。また、学校としてのダイナミックさがなくなってくる。

加えて、子どもが複数人でも気を配ることが大事。中山小学校の最後の学年は、学年1人ずつだったが、これでは学校とは言えない。また、5人いても、男子が4人、女子1人など男女比も同様である。学校では社会性を育成していくことが大事な目的であり、そのような部分を考慮していくことが必要。そのような観点からも学校統合は良い方向。

長藤委員

私は北中学校の卒業生で、現校舎に入学し学んだ。近年は、学校評議員や子どもたちの支援で学校に行っているが、とにかく老朽化が目立つ。子どもたちを安全・安心な環境で育てることが一番大事。ガタガタで不安定な椅子では座っていて不安がある。そのような環境は子どもたちのためにも改善してほしい。出来るだけ早く、新しい環境、学校統合という形で、早く安全・安心な環境で学べるようにしてほしい。

また、中学校での免許外指導は、先生方への負担も大きく、教育の質を確保し子ども達のためにも早急に解決しなければならないことであるので、その実現手段としても学校統合はお願いしたい。

木村委員

上山市の人口、子どもたちの減少割合が大きく焦りを感じており、早く学校統合が進んでほしいと思う。みらいの学校構想の概要版に、小学校4校の同時期か段階的統合のイメージ図がある。当事者である児童への責任を持つ保護者の考えを尊重するとも記載されているが、この部分をどのようにまとめていくのか教えてほしい。

教育企画課長

最終的に1校へ統合となるが時間を要すること。検討会の中でも、複式学級が良い悪い

とか、小規模校が良い悪いとか、いろんな議論を行ってきたが、最終的に小中学校ともに1校に統合という方向性にまとまっている。

統合を進める過程のなかで、保護者の特徴的な意見が出てきた場合にどうとらえるかという問題であり、途中経過として対応する部分を示していくことが大切だと考えている。

木村委員

アンケートという形で意見をくみ上げていくのか。

教育企画課長

今回もアンケートや市民説明会での意見を集約し、検討委員会で協議をしたうえで構想案を策定している。今後も、統合の検討状況を見ながら様々な機会を捉え検討していく。

山本市長

様々なご意見をいただいているが、当事者となる保護者、子どもの意見を大事にしながら、皆さんが何を期待しているか・知りたいかということ、新しい学校はどんな学校なのかという事である。

最終的に1校に統合となった時に、どのような学校で、どのようなコンセプトを持った教育が提供されるのかところが最も大事である。1校に統合するメリットや1校統合でしか出来ないことなどをいろいろ組み込んでいくことが大事である。

ただ、それぞれの子どもの特性と、保護者自身の価値観など様々な要素があり、最終的に答えが一つになることはないと思っているが、市としては、しっかり信念を持ち、新しい学校の在り方を示していきたい。また、この新しい学校の在り方についても様々なご意見をいただきながら、議論を進めていくことが大切である。

加藤教育長

私自身、以前、鶴岡市で勤務していた際に、最も早く学校統合を経験しており、その状況を良く理解している。ここ20年くらい、学校や学級について、少人数がいいとか、大人数がいいとか、複式学級も20年前は素晴らしいと言われてきたが、今は複式学級は解消すべきになっており、正直勝手だなと感じている。

もし、大人数の学校が素晴らしかったら、みんな素晴らしい人間になってるし、もし、少人数の学校がダメだったら、みんなダメな人間になってしまう。また、複式学級出身の方が、みんな素晴らしい人間だったら、複式学級は素晴らしいという論理になってしまう。

大事なものは、教育の中身であって、誰一人取り残さないという言葉と多様化が、現代の流れになっている。私は、「統合」という言葉は画一的な印象があるが、学校が統合になったら中身は多様化にしていくという考えである。

結局、様々な子どもに適した教育を可能な範囲でたくさんしていくことが人間力を高めることに繋がると思う。

この度のみらいの学校構想における学校統合も、やはり、1校に統合するための期間が示されない限り、議論が進まない。私としては早く結論を出すべきだと思っている。安全・安心で新しい学校は絶対必要である。形は統合だが、中身は多様化というのを私の中ではコンセプトにしていきたい。

山口委員

アンケート調査結果で、小中一貫教育のあり方について、保護者の55%、市民の45%が、小中一貫型教育、義務教育学校に賛成しており、みらいの学校構想に魅力があるからこそその結果と感じた。

教育企画課長

検討委員会としても、小中一貫型教育について協議し、構想において市が前向きに検討していくことを示しているが、義務教育学校だとしても、9年間をどのように編成するかで内容は変わるため、今回の構想では、小中一貫型教育の形態を明確に示さずに、小中一貫型教育の導入について検討の必要性がある程度の表記にとどめている。

山口委員

以前、宮川中学校に小中一貫型教育校を創設しようという流れがあった。教育委員会で各地区に出向き、小中一貫型教育の良さについて説明をしたこともある。

私の考えでは、みらいの学校構想に基づく新しい学校づくりは何年もかかると思うが、地域ごとに、小中一貫教育ということで、例えば、宮川小と宮川中で場所は違うが、教育カリキュラムの中で、小学6年生が宮川中学校の空き教室に行き、中学生と一緒に学習する等、様々な教育をしながら、特色ある上山の教育を創造していく必要があると思う。市民、保護者の願いを今後どう実現していくかを協議しながら、小中一貫型教育とするならば、やはり一つの学校に統合するのが良いと思う。

今後も、教育委員会として研究していくと思うが、全国各地に義務教育学校とか小中一貫型小中学校が創設されており、それぞれメリットや課題等があるので、運営している学校の課題等を研究していけば、面白い学校や魅力ある学校が出来ると思う。

加藤教育長

教育にはゴールがない。その時々でこの教育が良いと言いながら、結局はその後に課題に転じることもある。皆さまにお願いしたいのは、どんな学校でも、どの小中一貫型教育の形態でも完璧でメリットだけのものはなく、どの形態をとっても課題とデメリットは必ずあるということです。

調査した結果、この形態には課題がありそうだから学校統合をやめるとか、そういう方向にはしないで、とにかくスピード感を持って統合を進めていくことが必要です。

例えば、市民が求める結果をもとに、どんどん決めるべき事は決定し、実際に生じる課題を集めてくる。生じた課題を解決する手段は、当然後で考えるべきことです。

また、統合や小中一貫型教育を推進することについて、どんな学校だって課題はあり、どんな世の中でも教育の問題はあります。課題や疑問点を自ら探し出し、その解消策を前向きに進めていくという工程を何度も繰り返していくことが、教育に最も大切なことです。

山本市長

いろんなパターンを見据えながら進めていくことが非常に大事。保護者からすると、自分の子どもとの関係が一番大事な視点。自分の子どもがどの学年の時にどういう学校になるかが一番の関心事であって、自分の子どもが卒業したら関心を示さない。

我々は、その部分を大事にしなが、スケジュール感を示していくことが必要。スケジュールありきではないが、道筋は示さないと保護者の理解は進まず、判断ができない。

加藤教育長

現在、上山市の子どもたちの学力が伸びていたり、不登校の子どもが減少している。

加えて教職員の精神疾患が0人である。これは県内では、上山だけと自負しており、上山の教育に勢いがあると感じている。

この勢いを、みらいの学校構想に繋げることが大事。全教職員で、みらいの学校構を共有し、教育の本質を大事にする。ベクトルを合わせ一つの方向を見て、毎日の教育活動に集中していくことが本当の意味で、学校の統合に大切になると感じている。

心・意識の統合ということで、地域、市民が一つになりながら、上山のまちづくりに繋がっていくことなので、学校統合はゴールではなく、手段のひとつだという意識で進めていくとが必要だと思う。

山本市長

みんなが一つの方向を向いていくことが大事。これからの地方自治体の根幹の一つとなるのが教育であり、市民のみなさんと話をすると上山の教育にすごく期待をしている。

そのためには、多くの市民の協力が必要であり、今後もみんなで、ひとつの道に向かって進めていけるように取り組んでいく。

(3) 協議イ その他
なし

4 閉 会

教育企画課長より閉会を宣言